

平成 26 年度 事業報告



玉野総合医療専門学校

21世紀の医療・保健・福祉のスペシャリストを育成します。



1. 教育面については、国家試験の全員合格を目標に全学を挙げて取り組みます。また同時に、少子高齢社会を迎えた今日において、そのニーズに

的確に応えられる人材の養成に取り組みました。

2. 研究面については、教員の研究活動を積極的にサポートし、教員個々のスキルアップを図り、学生教育の充実に寄与しました。

3. 教育活動、研究活動並びに地域貢献の更なる充実に向けた改善・改革を推し進めました。

4. 産学官連携を目指し、玉野市との連携を充実させるとともに加計学園の一員として産学官連携活動へも積極的に参画しました。

玉野総合医療専門学校 校長 高井 研一

教学の充実

■カリキュラム

保健・医療・福祉のスペシャリストを養成する教育機関として、法令に準拠した科目に加え、独自の科目を配置し、体系的かつ特色あるカリキュラムを構築しました。

保健看護学科では、全国的にも有数な4年制の統合カリキュラムを採用し、卒業と同時に看護師に加え保健師の国家試験の受験資格が与えられます。また同時に高度専門士の称号が付与され、大学院への受験資格も得ることができます。

リハビリテーションの専門職である理学療法士、作業療法士を養成する理学療法学科、作業療法学科では、保健看護学科と同様に4年制を採用し、卒業と同時に国家試験の受験資格と高度専門士の称号が付与され、大学院への受験資格も得ることができます。1年次には社会人として必要な素養を身につけるための教養科目を数多く配置し、リハビリテーションに関する科目は、基礎分野から専門分野へ、座学から演習、病院での臨地実習へと段階的に学べる体系的なカリキュラムを構築しました。また、理学療法学科では本校独自のスポーツ分野のアスレチックリハビリテーション学を取り入れ、機能訓練に加え機能アップなどの学習も行いました。一方、作業療法学科では人の個別性に着目し、人の存在について学ぶ科目や訪問リハビリテーションなど病院以外で行われているリハビリテーションについて学ぶ科目を増やし、より実社会に則した授業を展開しまし

た。

介護福祉学科では、2年制を採用しています。卒業と同時に介護福祉士の国家資格を取得できることに加え、日本レクリエーション協会の認定校として、レクリエーション・インストラクターの資格も取得することができます。

■非常勤講師の招へい

保健・医療・福祉の最前線で行われている最新の医療を学ぶために第一線で活躍されている医師、看護師、療法士などのスペシャリストを招き、専門分野の授業を行っています。新たなカリキュラムや講師陣の陣容が決定する3月には専任教員と非常勤講師が一堂に会す連絡会議を開催し、より充実した講義内容とするために関連科目の講義内容のすり合わせや教育方法についてのディスカッションを行いました。

■FD推進

多様な学生に対応するための教育力向上を目指しています。具体的には、教員自身で行う自己点検評価、生徒による授業アンケートの実施(前期、後期)、校長、副校長などによる授業観察を実施しました。

また、自己研鑽できるよう個人研究費を配分し、学会への参加、論文発表、セミナーへの参加を促進しました。

研究の推進

■研究活動の推進

本校では、教員による研究活動を推進しています。保健・医療・福祉のスペシャリストを養成する学校としての主たる目的は教育活動であることは言うまでもありませんが、同時に研究活動を通じて最新の研究成果を学生に還元することも重要と考えます。そのため、学校全体あるいは学科の教育活動とのバランスを考慮し、可能な限り研究活動を行える環境を整えサポートしています。これらの成果として、

学会発表や論文投稿の実績を積み上げています。また、臨床研究を行う際には、必要に応じて倫理委員会を開催し、研究計画が倫理的に問題ないことを確認した上で、研究活動を許可する体制を構築し実施しました。

■学内紀要への積極的投稿

研究成果を発信するために紀要への投稿を奨励しています。例年、2年に1回のペースで発行していますが、昨年に引き続き今年度も発行致しました。

学生支援

■修学支援

- ・入学前教育の実施

早期に合格した生徒を対象に入学前教育を実施しました。高校での学習の妨げにならないよう配慮しながら、入学後スムーズに授業に参加できるよう導入教育を行いました。導入教育には十分に吟味したテキストを採用し、入学までの間、継続して学習する習慣をつけるため、定期的に課題を提出する方法を採用しました。学科によっては本を読む習慣が乏しい現状を踏まえ、読書も課題の一つとしている場合もあります。

- ・リメディアル教育の充実

新入生の学力を把握するために前期の授業が始まる前に基礎学力試験を行いました。試験の結果を踏まえ、各学科で必要となる基礎学力と学生個々の学力差を確認し、個々の学力に応じたプログラムによるきめ細かなリメディアル教育を実施しました。

■国家試験対策の強化

- ・外部専門家による学習習慣に関する研修

教育学の専門教員を招き、入学後早期から効率的な学習方法や学習習慣を身につけることの大切さについての授業を行いました。

- ・学習スペースの提供

生徒がいつでも自主学習ができるよう、自習室を始め、図書館、学生ホール、カフェテリアなどを開放しました。

・朝学

保健看護学科では、4年生を対象に後期から朝学を実施しています。1時限目が始まる1時間前に全員が登校し勉強を行います。これは、国家試験が行われる時間帯に最大限の力を発揮できるよう夜型になりがちな生活習慣を改善し、朝型するために行いました。

・基礎科目の強化

医療系の専門学校では人体の骨格、筋肉の名称や働きなど必ず覚えなくてはならない基礎となる科目があります。専門分野の学習に入る前に課題や補習などにより徹底した指導を行いました。

■生活支援

・チューター、コーディネーター制の導入

保健看護学科では、担当を決め個別指導を行うチューターと、クラスの担任の役割を担うコーディネーター制を導入し、学生の相談や指導に当たっています。また、介護福祉学科、理学療法学科および作業療法学科では担任制を導入しきめ細かなサポートを実施しました。

・カウンセリングの実施

外部からスクールカウンセラー並びに診療所勤務の現役の心理士を招き、定期的にカウンセリングを行っています。カウンセリングは事前予約制とし、教室から離れた場所にカウンセリングルームを設け、相談を受けやすい環境を整備しています。

・スクールバスの運行

スクールバスを岡山駅西口～本校間、倉敷駅～茶屋町駅～本校間を運行しています。平成25年度に引き続き、動く広告塔として運行を継続しました。



■就職支援

・求人情報の開示

教員室前に、全国各地から届いた求人情報を開示し、生徒がいつでも閲覧できる環境を整えています。

・個別就職相談

各学科で就職担当者を決め、学生の希望、学習状況などを鑑み、個別に就職相談に応えました。

・就職懇談会（保健看護学科）

保健看護学科では、複数の既卒者を招き、卒業前と就職後の意識の変化、仕事での苦勞話しややりがいなどに関する講話と在校生との意見交換会の場を設け、早い段階での就職に関する意識付けを行いました。

■その他

・国際交流の実施

学校法人加計学園と教育交流協定を締結しているアメリカ ライト大学、同 フィンドリー大学、ブラジル パラナ・カトリナ大学、同 パラナ連邦大学から訪日文化研修団を受け入れ、学生主体による交流会を実施しました。



主な取り組みとして英語による学科紹介、日本の文化体験としてキャラクター弁当作りなどを行い、最後にソーラン節を全員で踊り、同世代の外国の学生と接することで、国際理解・協力の一端を経験しました。

・海外研修の実施

9月3日から約2週間、アメリカ研修を実施しました。



引率教員2名を含む12名で研修団を結成し、1週間のシェネンドア大学（ウィンチェスター市）での研修とホームステイから始まり、後半はワシントンDCの視察、西海岸へ渡りディズニーランド、ティファナ、グランドキャニオンの観光など日本では味わうことのできないさまざまな貴重な体験を行いました。

・教育・進路懇談会の実施

学校と家庭を結ぶ架け橋として「教育・進路懇談会」を実施しました。1、2年次生を対象とした懇談会を9月に、3、4年次生を対象とした懇談会を11月に行い、学校と保護者がそれぞれの環境下での学生の現状について連絡を取り合うことで、学生の変

化を早期に感じ取り、学校、保護者と連携した適切な指導に役立てました。

社会連携・社会貢献

■地域貢献の推進

玉野市と連携協力し、市民向けのアカデミックな公開講座をはじめ生涯教育に関する出張講義、地元の中学生、高校生を対象とした講義や模擬授業を積極的に実施しました。また、たまの・港フェスティバルや玉野まつりなど地域のイベントへも積極的に参加し、地域になくってはならない存在となるべく貢献しました。

■公開講座の実施

毎年3回公開講座を実施しています。玉野市民等の熱意に対して医療・保健・福祉分野の情報を幅広く積極的に提供しました。



今年度は、「いきいきとした生活を目指して」をテーマに、10月18日の校長による基調講演を皮切りに、転倒予防、腰痛撃退、自分らしい生活、脳科学など11月15日まで計3回、5つの講座を実施しました。「分かりやすい。ためになる。」などの意見が多く寄せられました。毎年この講座を楽しみにしている多くの方々のために、今後も継続して実施します。

■玉野市内の行事への参加

玉野市最大のイベント「たまの・港フェスティバ

ル(5月)」に参加しました。本校が出展した健康増進体験ブースは多くの来場者でにぎわい、参加者は血圧、脈拍、肺活量などの測定や脳年齢チェック(作業療法学科)などの結果を真剣に見入っていました。



また、玉野の中心地で行う盆踊り大会「かつからか祭り(8月)」では、今年度は100名を越える教職員が踊り連に参加し、夏の暑さを吹き飛ばすほどの勢いでお祭りを盛り上げました。



さらに、学友会主催の学校祭「優勇祭(10月)」では、前夜祭と優勇祭の二日間、日頃の厳しい勉強を忘れ、学生や来場者で盛り上がりました。



1月に開催する「鏡開き」に市民団体等の参加を呼びかけ、多くの市民が来校してもらえるようにし

ました。

■近隣自治会との協定締結(平成26年10月29日)

高潮、津波などの大規模災害の危険が目前に迫る中、学校近隣の広田団地自治会からの要望を受け、本校を一時避難場所としての使用に関する協定を締結しました。10月29日には双方の代表による調印式を行いました。



■加計学園の設置校としての連携

加計学園が推進する地域を越えた連携協力活動に積極的に参加し、地域を越えた社会貢献を行いました。

内部質保証

■自己点検・評価

・教職員のFD・SD活動

加計学園本部主導による自己研鑽、検証制度を実施している。PDCAサイクルによる自己点検・評価を実施しました。

また、研修会への積極的参加も促し、個々のスキルアップを図りました。

・授業アンケート

前期、後期の授業において学生による授業アンケートを実施しました。アンケート項目は、講義をする側を一方向的に評価するだけでなく、学生自身の授業に向かう姿勢も自己評価する項目もあり、双方向で検証ができる内容となつて

います。

■教員授業観察の実施

- ・教育力向上への取り組み。

後期の授業において、専任教員を対象とした授業観察を実施しました。授業の方法や工夫などについて、客観的に評価するもので、校長以下副校長、事務長などが観察しました。

工夫されている授業については、広く紹介し、工夫が必要な場合は、直接該当者に伝え、教育力の底上げを図りました。

学生の受入

■多様な入試制度の実施

平成 25 年度に引き続き、年内、年明け問わず多様な方々が受験できるよう入試回数を増やし、地方会場を改編し、社会人入試の複数化など、多様な入試制度を実施しました。

■職業訓練生委託事業の実施(介護福祉学科)

雇用対策の一環として平成 25 年度に引き続き岡山県が実施する職業訓練事業(介護福祉士養成)の受け入れ先となり、介護福祉学科へ訓練生を受け入れました。

■入学金減免制度実施

- ・指定校入試で合格した学生の入学金の一部を減免する制度を継続しました。
- ・玉野市内の高等学校出身者で、AO入試、特別入試で合格した学生への入学金の一部を減免する制度を継続しました。

■看板設置

玉野市を訪れた方々へ玉野市内にある唯一の高等教育機関であることをアピールするためにおひざ元の宇野駅と宇野線に乗り換える拠点である茶屋町駅に看板を平成 25 年度に引き続き設置し、広く認知度

向上に努めました。

■オープンキャンパスの実施

平成 26 年度オープンキャンパスの開催日数、及び内容を継続させ高校生に魅力あるイベントを実施しました。



また、山陰、姫路、福山方面からの受験者の確保を目指し送迎のためのバスを運行しました。

■テレビCMの実施

本校の認知度を向上させ、一人でも多くの方に本校に足を運んでもらうために、オープンキャンパスの告知を、5月から8月の期間に集中的にテレビCMを放映しました。

人事・組織

■適切な人材の確保、配置

養成校としての責務を果たすために適性にあった教職員を確保し、必要に応じて適切に配置しました。

また、教育効果を最大限に考慮し、実務のスペシャリストを講師として迎え入れ、充実した講義の実施に努めました。

課外活動

■サークル活動の支援

学友会活動の奨励、多面的な活動支援の実施
本校は、専門学校としては稀な広いグラウンド

と体育館を有しています。これらの設備を学生が活用できるよう部活動を奨励しました。その成果により、岡山県の専門学校各種学校交流スポーツ大会で総合優勝の栄誉を手に入れました。



(主な戦績)

バレーボール 男子、女子 優勝

軟式野球 優勝

バスケットボール 女子 優勝

ソフトテニス 優勝、準優勝、3位独占

卓球 男子 優勝、準優勝 女子 準優勝

サッカー 準優勝

主な行事

4月4日	入学宣誓式
5月10日	宣誓式(保健看護学科)
5月24、25日	たまの・港フェスティバル
5月25日	第1回オープンキャンパス
6月2日	AO入試エントリー開始
6月22日	第2回オープンキャンパス
7月4日	国際交流(外国人研修団受入)
7月19日	第3回オープンキャンパス
8月2日	第4回オープンキャンパス
8月2日	玉野まつり
8月30日	第5回オープンキャンパス
9月6日	教育・進路懇談会
9月3日～15日	海外研修(アメリカ合衆国)
9月27日	第1回入試相談会
10月1日	宣誓式(介護福祉学科)
10月11日	特別入試
10月24日25日	優勇祭(学校祭)
11月8日	推薦入試Ⅰ期
12月7日	推薦入試Ⅱ期、社会人入試Ⅰ期他
12月13日	第2回進路・入試相談会
12月19日	壮行式(理学療法学科・作業療法学科)
1月24日	一般入試Ⅰ期
2月20日	入学予定者オリエンテーション
3月3日	一般入試Ⅱ期、社会人入試Ⅱ期
3月7日	非常勤講師連絡会議
3月10日	卒業証書授与式
3月中旬	第6回オープンキャンパス
3月20日	実習指導者連絡会議
3月23日	一般入試Ⅲ期他

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成26年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
医療専門課程	保健看護学科	40	40	160	161
	理学療法学科	40	40	160	156
	作業療法学科	40	22	160	103
	計	120	102	480	420
教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	40	18	80	35
	計	40	18	80	35
合計		160	120	560	455

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成26年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
玉野総合医療専門学校	89	77	77	100%	0	35	11	26

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成26年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	岡山大学病院、鳥取市職員（保健師）、玉野市職員（保健師）、岡山県精神科医療センター 香川大学医学部附属病院、鳥取医療センター、福山リハビリテーション病院 他
-------	---

■教職員数

(平成26年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
1	2	28	31	8

(単位：人)

財務関係

■消費収支

(単位：千円)

科目	年度 26年度 決算額	前年度 決算額
学納金収入	479,260	499,577
補助金収入	24,083	27,602
その他収入	20,645	22,282
帰属収入合計	523,988	549,462
基本金組入額合計	0	△ 2,687
消費収入の部合計	523,988	546,775
人件費	370,487	372,237
教育研究経費	114,674	140,646
管理経費	42,105	42,898
その他支出	798	126
消費支出の部合計	528,063	555,907